

各 位

共同ピアール総合研究所【広報の学校】
アーカイブ受講セミナー2022年夏
～ 開講のお知らせと「実施要項」のご送付 ～

拝啓 時下益々ご繁栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、広報分野の専門教育機関「広報の学校」では、このたび別紙【実施要項】の通り、地方在住者や多忙で所定時間での聴講が困難な方、あるいは集合研修を避けたい方など向けに、会場に行くことなく、1ヶ月間いつでも自由に繰り返し視聴できる「アーカイブ受講セミナー」全9講座の開講準備が整いましたので、茲許ご案内をご送付申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大対策を受け、オンラインでの学びが注目を集める中、私どもでは多彩な講座をご用意し、みなさまのビジネス向上にお役立て頂けるように致しました。

ご参加お申込みにつきましては、誠にお手数ながらウェブサイト上にてお手続きをお願い申し上げます。

どうぞ奮ってのご聴講をお待ち申し上げます。

敬具

2022年7月吉日

共同ピアール株式会社

総合研究所長・「広報の学校」統括

池田健三郎

【お問い合わせ先】

弊社業務は在宅勤務主体となっておりますことからメールにてご連絡ください。
担当者より原則2営業日以内にご返信申し上げます。

共同ピアール総合研究所「広報の学校」事務局

seminar@kyodo-pr.co.jp

広報分野の専門教育機関「広報の学校」では、遠方の方や多忙な方、あるいは集合研修を避けたい方など向けに、会場に行くことなく、1ヶ月間いつでも自由に繰り返し視聴できる「アーカイブ受講セミナー」として、以下の9講座を開催いたします。

＜広報の学校＞アーカイブ受講セミナー2022年夏のご案内

- ① 入門広報
- ② 入門危機管理広報
- ③ ロジカル・ライティング基礎
- ④ SDGs 広報/IR の戦略と実務
- ⑤ 入門メディアトレーニング
- ⑥ 企業防災と広報
- ⑦ 企業ブランド確立のためのウェブ・SNS 活用
- ⑧ SNS 運用の基本と発信
- ⑨ 実践ニュースリリース

■アーカイブ受講概要

- ・配信はすべてインターネット・アーカイブ映像となります。
- ・視聴期間：8月5日(金)～9月4日(日)の1ヶ月間、いつでも自由に何度でも視聴することができます。
- ・資料(PDF)は、ダウンロード可能です。講座によっては、視聴のみの場合がございます。
- ・1IDで1ユーザーのみ視聴が可能です。(1IDで複数の方は視聴できません)
- ・**お申込みの前に必ずインターネット環境をお確かめください。**
セキュリティの設定や、動作環境によってはご視聴いただけない場合があります。
以下のサンプル動画が閲覧できるか、事前にご確認の上、お申し込みください。

■テスト視聴サイト

<https://deliveru.jp/pretest5/> ID livetest55 PW livetest55

※視聴して「閲覧できません」旨ご連絡をいただいても、応じかねますので必ず事前にご確認ください。

■推奨環境について

今回の動画配信は、株式会社ファシオの配信プラットフォーム「Deliveru」を利用しています。
推奨環境・ご質問は下記 URL をご参照ください。

◎推奨環境 <https://deliveru.jp/faq/#Q7> ◎よくあるご質問 <https://deliveru.jp/faq/>

■申込方法：ウェブサイトページからお手続きください。

- ⇒ インターネットで「**共同ピーアール セミナー**」と検索し、申込フォームにお進み下さい
アドレス：<https://www.kyodo-pr.co.jp/seminar>
※お申込み受付後に自動返信メールにてお申込確認情報が届きます。

■申込締切：8月2日(火)17時必着

- お支払方法：ご請求書をPDFでお送り致しますので、到着後、記載のお支払期限までにお振込みください。
※郵送をご希望の場合には、お知らせください。
《振込先》みずほ銀行(0001) 八重洲口支店(026) 普通預金 口座番号:2677982
口座名義：キョウドウ共同ピーアール株式会社 グチセミナー口

＜お問い合わせ先＞ メールでご連絡ください。担当者より原則2営業日以内にご返信申し上げます。

「広報の学校」事務局 seminar@kyodo-pr.co.jp

① 入門広報

- 本講座の特色
- パブリシティ(メディアへの情報提供)実務に特化したカリキュラム
 - ◆ 実務に役立つ実践ノウハウの習得
 - ニュース価値(メディアに受け入れられる情報とは何か)の理解
 - パブリシティに不可欠の基礎知識の習得
 - ◆ メディアの変化を踏まえた5つのメディアに関する基礎知識
(メディアの種類/仕組み/特性/報道に至るプロセス)
 - ◆ パブリシティの手法に関する基礎理解
 - ◆ 取材対応等の広報実務に関する基礎理解
 - ◆ パブリシティツールに関する基礎理解
 - webメディアの分類、webPRの考え方、アプローチ方法、SNS/インフルエンサー活用
- 受講料 45,000円 (消費税、レジュメ代含む)

オンライン「入門広報講座」カリキュラム

全講座6時間12分

時間	内容	講師
講座1	<p><広報とは、ニュース価値とは></p> <p>広報活動の目的、効果、機能/レピュテーション(コーポレートブランドと広報)/ステークホルダーとパブリシティの関係/広報と広告/パブリシティとは/ニュース(価値)とは/ニュースの条件</p>	篠崎 良一
講座2	<p><メディアとは></p> <p>メディア環境の変化/メディア(新聞、雑誌、TV、インターネット)の基礎知識/記事、報道までのプロセス/記者について</p>	篠崎 良一
講座3	<p><webによるPRの環境変化></p> <p>webによるメディア環境の変化/webメディアの分類(webメディア・SNS・インフルエンサー) webPRの考え方/webへのアプローチ方法/事例研究</p>	吉岡 大輝
講座4	<p><パブリシティの手法とツール></p> <p>①パブリシティの手法(プレス発表/記者会見/資料配布/リーク/ランチョン/レクチャー会/取材協力…)</p> <p>②パブリシティツール(ニュースリリース/ニュースレター/データリリース/ファクトブック/パブリシティ調査)</p> <p>«演習» 参考資料を見て、各自でリリースタイトルと取材対応Q & Aを作成する。</p>	篠崎 良一
講座5	<p><取材対応とメディアとのリレーション></p> <p>広報担当者の資質と条件/記者との関係/メディアリレーションの基本/取材対応(電話・インタビュー)のポイント/取材依頼から実施までのプロセス/Q & A作成のポイント</p>	篠崎 良一

【講師プロフィール】

●篠崎 良一

共同ピーアール総合研究所「広報の学校」校長

広報コンサルタント、危機管理広報コンサルタント、メディアトレーナー



早稲田大学第一文学部社会学専攻卒。出版社(日本実業出版社、ローリングストーンジャパン)を経て、共同ピーアール(株)入社。取締役副社長を経て現職。1993年4月『危機管理広報部門』を創設。2003年5月『広報の学校』を開校。2013年1月『PR総研』を創設。企業・団体の広報・危機管理コンサルティング、広報・危機管理研修担当。

著書に『入門メディアトレーニング』(アニモ出版)、『実践企業広報マニュアル』、『会社を守る!もしものときのメディア対応策』(共にインデックス・コミュニケーションズ)、『広報・PR概説』(共著、同友館)、『広報・PR実践』(共著、同友館)、『パブリックコミュニケーションの世界』(共著、北樹出版)他がある。

●吉岡 大輝

株式会社シニスケープ 代表取締役

東京大学大学院情報理工学系専攻卒。共同ピーアール株式会社を経て、2020年より現職。2018年より『広報の学校』「入門広報講座」web PR担当。共同ピーアールでは、ゲーム系企業、PC周辺機器企業などのBtoC企業から、重工業、IT企業などBtoB企業など幅広い領域を担当。現職では、広報活動サポートに加え、大手ポータルサイトの企画開発、多言語のコンテンツ配信サイト開発なども行う。

②入門 危機管理広報

- 本講座の特色
1. 具体的な事例研究と実践的対策
 2. ソーシャルメディアリスク対応ノウハウの習得
 3. 最近の企業不祥事の傾向(トレンド)と今後の方向性
 4. 危機管理の基本(基礎)から具体的なクライシスコミュニケーション(危機管理広報=メディア対応)の実務知識、スキルの習得

■受講料 45,000 円 (消費税、レジユメ代含む)

オンライン「入門危機管理広報講座」カリキュラム

全講座4時間49分

時 間	講義テーマ	内 容	講 師
講座 1	危機管理事例研究	成功事例VS失敗事例	篠崎 良一
講座 2	SNSリスク対応 (炎上・フェイクニュース)	炎上(影響/拡大プロセス/対応のポイント/未然防止策/炎上対策/電凸対応) 演習(炎上時の広報対応<コメント作成>) フェイクニュース(背景/関与者/影響力/コスパのよさ/見破るには)	
講座 3	危機管理の基本	企業不祥事の5つのトレンド/危機管理の目的/リスクとクライシス/4つのリスク対応/リスク評価/危機管理広報とブランド回復プロセス/なぜ失敗するのか/平常時広報と危機管理広報の違い/プロセス/5つのダメージ/企業批判の三分野/危機管理の基本	
講座 4	危機管理広報	危機時の広報担当者の業務/マスコミの企業不祥事への視点/電話対応のポイント/対面取材のポイント/緊急記者会見が必要なケース/緊急記者会見の意味と基本原則/記者会見対応のポイント/避けるべき失言/出席者の注意/コメントの注意/態度/Q & A作成のポイント	

【講師プロフィール】

●篠崎 良一

共同ピーアール総合研究所「広報の学校」校長

広報コンサルタント、危機管理広報コンサルタント、メディアトレーナー

早稲田大学第一文学部社会学専攻卒。出版社(日本実業出版社、ローリングストーンジャパン)を経て、共同ピーアール(株)入社。取締役副社長を経て現職。2003年5月『広報の学校』を開校。2013年1月『PR総研』を設立。企業・団体の広報・危機管理コンサルティング、広報・危機管理研修担当。

危機管理では欠陥商品、リコール、企業不祥事、訴訟問題、企業機密・個人情報漏洩、内部告発、差別・人権問題等、数多くの危機管理実務、クライシスコミュニケーションのコンサルティングを実施。(クライシス)メディアトレーニング、マニュアル制作、危機管理調査も担当。

著書に『入門メディアトレーニング』(アニモ出版)、『実践企業広報マニュアル』、『会社を守る!もしものときのメディア対応策』(共にインデックス・コミュニケーションズ)、『広報・PR概説』(共著、同友館)、『広報・PR実践』(共著、同友館)、『パブリックコミュニケーションの世界』(共著、北樹出版)他がある。(社)日本PR協会認定『PRプランナー』試験委員。



③ロジカル・ライティング基礎

■本講座の目的・特徴

- 【主な目的】
- ①論理的で説得力のある文章の作成技術を身に付ける
 - ②ライティングを通じて論理的な発想力・対話力を高める
 - ③部下や同僚の文章に対するディレクション力を高める
- 【主な特徴】
- ①コンパクトながらロジカル・ライティングの全体像の理解を促す
 - ②パラグラフの書き方・つなぎ方から主題の設定まで一貫した方法論
 - ③後半は、プレスリリース・社内報などの実務に即したカリキュラム

■受講料：45,000円(消費税・資料代含む)

オンライン「ロジカル・ライティング基礎講座」カリキュラム

全講座3時間57分

概括	テーマタイトル	内容
Part1 どうやって考えるのか	1-1 ロジカル・ライティングとは何か?	・論理的思考+つくる技術+見せる技術 ・論理的な文章の種類、「読みがい」の追求
Part2 どうやって書くのか	2-1 論理的文章の構造と流れ	・ロジカルシンキングとロジカルライティング ・論理的文章の流れ(提示→展開→結語)
	2-2 パラグラフの書き方とつなぎ方	・パラグラフの基本構造と重要なルール ・「構成接続」と「展開接続」を使い分ける
	2-3 論証する文章の書き方	・「論証する文章」を支える「仮説」の重要性 ・「論証する文章」のパターンとその特徴
	2-4 説明する文章の書き方	・「説明する文章」を支える「順序」と「配列」 ・「説明する文章」のパターンとその特徴
	2-5 「主題」をいかに発想するか	・「客題」から「主題」へ—仮説の発想法 ・相手に応じたメッセージで主題を演出
	2-6 編集技術の基礎	・引きのある見出し、誘導力のあるリード ・ストーリーやレトリックで文章に活気を
Part3 効果的な「広報文」	3-1 採り上げられるプレスリリース	・記者の目を引き記事を書かせるには ・プレスリリースの要点(要素・流れ・論理)
	3-2 共感と行動を生み出す社内報	・考えさせ動機づける記事を書くには ・経営メッセージの要点(要素・流れ・論理)
	3-3 ライティングプロセスと本日のまとめ	・ライティング・プロセスの品質を高めよう ・論理を尽くして「読みがい」をつくり出す

【講師プロフィール】

●菊地 史彦

株式会社ケイズワーク代表取締役、東京経済大学大学院講師

慶應義塾大学卒業。筑摩書房、編集工学研究所勤務を経て、1999年、ケイズワークを設立し、代表取締役に就任。企業コミュニケーション、ブランディング、ナレッジマネジメントを主要分野にコンサルティングやメディア制作業務などを行ってきた。

2003年に企業変革を促進するインナーコミュニケーションのコンセプト“Change Communication”を提唱し、翌年から当社メールマガジン K's Letter に「コーポレートビジョンを訪ね歩いて」や「コミュニケーション思想の先駆者たち」を連載。なお、2000年には株式会社ビジネスカフェジャパン、2006年には株式会社ラジオカフェ設立に参加。東京経済大学大学院(コミュニケーション研究科)講師。

企業研修の分野では、ケイズワーク創業以来、情報編集・提案営業・プレゼンテーションなどのテーマで、研修講師を務めてきたが、2010年、「ロジカル・ライティング」のカリキュラムを新たに構築し、製造業・流通業・サービス業など多分野の企業で研修を行ってきた。共同ピーアール「広報の学校」では、毎春・秋に「ロジカル・ライティング基礎講座」と「リライトと取材・文章編集講座」の両講座を担当している。

著書：『「象徴」のいる国で』(作品社、2020年)、『「若者」の時代』(トランスビュー 2015年)、
『「幸せ」の戦後史』(トランスビュー 2013年)

共著：『情報文化の学校』(NTT出版 1998年)



④SDGs 広報/IR の戦略と実務

- 本講座の特色
- ①SDGsの基礎をわかりやすく解説したうえで、戦略と実務に特化したカリキュラム(実務に役立つ実践ノウハウの修得)
 - ②企業価値を高めるメディア対策、ニュースづくりのツボの理解(メディアが関心を持つSDGsへの取り組みの要諦を知る)
 - ③事例研究(様々な企業・団体の取り組み事例を独自の目線で評価・検証)
 - ④「SDGs推進企業」として投資資金の獲得に向けたPR手法や、リスク管理の視点からのSDGsへの対応を学ぶ
 - ⑤経営者に最適な判断を促すロジックの組み立て方を学ぶ

■受講料 45,000円(消費税、資料代含む)

オンライン「SDGs広報/IRの戦略と実務」カリキュラム

全講座3時間24分

時間	講義(内容)	講師
第I部	SDGsが企業・団体を取り巻く環境および構造変化について ESG投資と企業広報・IRの現状と課題 SDGsと自社事業、およびコーポレートガバナンスとの連関および有効な広報戦略を探る	池田 健三郎
第II部	ポジティブ・イシューとネガティブ・イシュー:対処方針の相違点とSDGs SDGsへの取り組みは企業・団体の危機管理である 事例に学ぶSDGs広報 まとめ	

【講師プロフィール】

●池田 健三郎 (いけだ けんざぶろう)

共同ピーアール総合研究所長 関西学院大学大学院 経営戦略研究科客員教授

経済評論家・政策アナリスト、シンクタンク代表、ビジネス・コンサルタント、TV コメンテーターとして長年の実績を有する。



JCI(国際青年会議所) セネターおよび公社日本青年会議所アドバイザーも務め、まちづくり、地方創生等に関する講演も多数行う。

金沢大学法学部卒、早稲田大学大学院政治学研究科(公共経営専攻)修了。

1992年日本銀行入行(総合職/調査統計局企画調査課)。その後、金融経済の第一線で研鑽を積み、1999年以降は民間シンクタンクにおいて活動。近年は幅広い人脈を生かし、公共政策や金融分野を中心とした評論・執筆・講演、プロデュース活動のほか、企業団体の顧問や社外役員として、ガバナンスおよびリスク管理強化に注力。戦略的経営のアドバイザー・サービス供与やベンチャー企業支援なども行う。とくにIPO準備企業におけるリスク管理体制整備と

PR/IR の一体的な高度化サポートでは、上場準備の各プロセスに潜む様々なリスクの把握と PR の視座からのプラス転化において高い評価を得ている。

2019 年 8 月、当総研シニアフェローに就任し、2020 年 1 月より現職。

【主な著書】『金融政策プロセス論』(日本公法)、『「郵政」亡国論』(ワニブックス PLUS)

【兼務中の役職】

関西学院大学大学院 経営戦略研究科 客員教授

(特非) 公共政策調査機構 理事長

(公社) 日本青年会議所 アドバイザー

(一財) 防災教育推進協会 評議員

(特非) 日本郵便文化振興機構 代表理事

(医社) 井上外科記念会 (世田谷井上病院) 監事

早稲田大学エクステンションセンター講師

【実績】

浜松大学 ビジネスデザイン学部 特任教授

PwC あらた監査法人 顧問

⑤入門メディアトレーニング

- 本講座の特色
- 1、メディア対応の基礎知識とスキルの獲得
 - 2、取材(インタビュー)・記者会見のルールと基本原則の理解
 - 3、ポジティブ(平常時)、ネガティブ(緊急時)2つの局面の対応の差異と留意点
 - 4、スピーチ・プレゼンテーションの表現力強化
 - 5、オンライン取材・記者会見のポイントと留意点
- 受講料 45,000円(消費税、レジュメ代含む)

オンライン「入門メディアトレーニング」カリキュラム

全講座3時間60分

時 間	内 容	講 師
講座1	<スピーチ・プレゼンテーション> (目的、要素、成功の条件、話し方のポイント、リハーサル、パワポの使い方、聴き手の分析、イントロとエンディング)	篠崎 良一
講座2	<ポジティブ(平常時)メディアトレーニング> (目的と効果、メディア・記者の視点、メディア対応の3つの誤解、情報公開のルール、電話、インタビュー(取材)、記者会見、TV取材(出演)、オンライン取材・会見<対応ポイントと注意、準備、Q&A、各メディアの特性>	
講座3	<ネガティブ(緊急時)メディアトレーニング> (緊急時メディア対応に必要な知識、ネガティブバイアス、記者・カメラマンの心理、ネガティブ(緊急時)の電話・対面取材・記者会見・オンライン会見・TV取材(出演)の対応ポイントと注意、配布資料・準備・会見場、リハーサル、成功VS失敗事例<記者会見>)	

【講師プロフィール】

●篠崎 良一

共同ピーアール総合研究所「広報の学校」校長

広報コンサルタント、危機管理広報コンサルタント、メディアトレーナー



早稲田大学第一文学部社会学専攻卒。出版社(日本実業出版社、ローリングストーンジャパン)を経て、共同ピーアール(株)入社。取締役副社長を経て現職。

1993年4月『危機管理広報部門』を創設。2003年5月『広報の学校』を開校。

2013年1月『PR総研』を創設。企業・団体の広報・危機管理コンサルティング、広報・危機管理研修担当。

危機管理では欠陥商品、リコール、企業不祥事、訴訟問題、企業機密・個人情報漏洩、内部告発、差別・人権問題等、数多くの危機管理実務、クライシスコミュニケーションのコンサルティングを実施。(クライシス)メディアトレーニング、マニュアル制作、危機管理調査も担当。

著書に『入門メディアトレーニング』(アニモ出版)、『実践企業広報マニュアル』、『会社を守る!もしものときのメディア対応策』(共にインデックス・コミュニケーションズ)、『広報・PR概説』(共著、同友館)、『広報・PR実践』(共著、同友館)、『パブリックコミュニケーションの世界』(共著、北樹出版)他がある。

⑥企業防災と広報

■本講座の特色

- ・単なる「企業防災」講座ではなく、防災対策と広報戦略とを統合的・実践的に学ぶ画期的な講座です
- ・企業防災の最新情報や豊富な事例を用いて、わかりやすく講義します
- ・広報担当者のみならず、IR、危機管理、総務系担当者も必聴の内容です

■受講料 45,000円（消費税、資料代含む）

オンライン「企業防災と広報」カリキュラム

全講座3時間29分

時間	講義内容	講師
講座1	企業とリスク・マネジメント 現代リスク社会 リスク・マネジメント リスク・コントロール リスクとクライシス	濱口 和久
講座2	クライシス・コミュニケーション クライシスの本質 自然災害発生時の広報	
講座3	企業の防災対策 未曾有の不確実性時代へ 平時にやっておくべき10の備え 企業防災（BCP）の3種類	
講座4	リスク別の危機管理の方法 地震リスク（～大都市を直撃する震災～） 火災・爆破リスク（～NY世界貿易センタービル爆破～） 風水害リスク（～20XX年、台風●号、首都圏に襲来～） 情報ネットワーク中断リスク	

【講師プロフィール】

はまぐち かずひさ
●濱口 和久

拓殖大学大学院地方政治行政研究科特任教授・防災教育研究センター長

昭和43(1968)年、熊本県菊池市生まれ。

防衛大学校材料物性工学科卒業(工学士)、日本大学大学院総合社会情報研究科博士前期課程修了(国際情報修士)、名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程社会環境学専攻在籍中。

【職歴】

防衛庁陸上自衛隊、元首相秘書、日本政策研究センター研究員、栃木市首席政策監(防災・危機管理担当兼務)、テイケイ株式会社常務取締役、日本防災士機構理事、拓殖大学日本文化研究所客員教授などを歴任。



【現職】

拓殖大学大学院地方政治行政研究科特任教授・防災教育研究センター長
共同ピーアール総合研究所 客員研究員
東京大学災害対策トレーニングセンター連携研究者
一般財団法人防災教育推進協会常務理事・事務局長
日本戦略研究フォーラム政策提言委員
滋賀県近江八幡市安土城復元推進協議会副会長

【主な著書】

『日本版民間防衛』(青林堂) 共著／『戦国の城と59人の姫たち』(並木書房)／『日本の命運歴史に学ぶ40の危機管理』(育鵬社)／『探訪日本の名城(下)戦国武将と出会う旅』(青林堂)／『探訪日本の名城(上)戦国武将と出会う旅』(青林堂)／『だれが日本の領土を守るのか?』(たちばな出版)／『思城居(おもしろい)男はなぜ城を築くのか』(東京コラボ)

⑦企業ブランド確立のためのウェブ・SNS活用

- 本講座の特色
- ①実践的な知識・スキルの習得
 - ②具体的なケーススタディ研究
 - ③実務に特化した内容
 - ④すぐに現場で応用可能

■受講料 45,000円（消費税、資料代含む）

オンライン「企業ブランド確立のためのウェブ・SNS活用講座」カリキュラム

全講座3時間28分

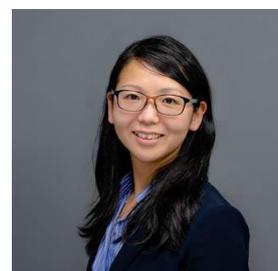
時間	テーマ	内容	講師
第1部 社会変化	企業を取り巻く コミュニケーション環境 と企業の変化対応	企業を取り巻くコミュニケーション環境 ・メディアの変化の個人の影響力拡大 ・多様化する価値観やSDGs等 ・企業コミュニケーションへの影響 変化対応のための企業コミュニケーション ・設計やコンテンツの傾向 ・環境の変化に対応するための発信とは	美奈子・ブレッズミス
第2部 活用事例	企業コミュニケーション 活用事例と危機対応事例	さまざまな企業コミュニケーション事例 ・ウェブ・SNS活用の具体事例 ・多様な表現手法によるブランド訴求	
第3部 管理手法	企業ウェブ・SNS活用の 戦略策定と運用計画 の概要	共感形成のための運用とは ・オンライン戦略の構築方法 ・コンテンツ企画・運用の概要 ・環境の変化に対応するための社内連携	

【講師プロフィール】

●美奈子・ブレッズミス

クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役

コミュニケーション・コンサルタント。日本広報学会会員。
2003年、クロスメディア・コミュニケーションズ(株) 入社。
2008年、出産・育児のため退社。
2014年、同社へ再入社。
2020年、執行役員就任。
2021年、現職。



- ・デジタルメディア戦略策定
- ・ソーシャルメディアガイドライン作成
- ・ソーシャルメディア運用支援
- ・ウェブサイトリニューアル戦略策定
- ・社内デジタルメディアコミュニケーション方針策定
- ・企業コンテンツ(動画、写真、ストーリー)のディレクション
- ・連載企画にて先進企業の社内コミュニケーション(デジタル・アナログ)の取材と執筆を担当
- ・日本広報学会会員

⑧ SNS 運用の基本と発信

- 本講座の特色
- ①ツールの使い方に留まらない、企業・団体戦略とリンクした本質的なコミュニケーション戦略を学ぶ。
 - ②属人的でウケ狙いになりがちな SNS 運営ではなく、ガバナンスある運営プロセスについて学ぶ。
 - ③先行事例や使用されているツールを学ぶ。
- 受講料 45,000 円（消費税込、資料代含む）

オンライン「SNS 運用の基本と発信」カリキュラム

全講座3時間2分

時間	内容	講師
第1部	コミュニケーションとSNS 既存の広告・広報とSNS運用はどのような関係にあるのか、ネットユーザーと世間の違いなど、安定したSNS運営のために必要な基礎的な知識・考え方について解説します。	射場本 健彦
第2部	SNS運営のプロセス・道具・担当者の役割 「ネタ探し、文章・写真・動画作成、投稿、レビュー」といったSNS投稿作成のプロセスや、世間の反応にどう対応するか、SNS運営のプロセスと使用する道具について解説します。	
第3部	組織的にSNSを運営する SNS運営が担当者の属人的な職人芸となってしまう企業・団体が時折見られますが、これでは法人のコミュニケーションとしての長期的な品質担保が出来ません。SNS運営のガバナンスについて解説します。	
第4部	まとめ：SNSの運営と組織戦略 本講座で学んだことの振り返りと、なぜSNS運営をするのか、組織戦略においてSNSをどう位置付けるのかについて考えます。いまあるSNSサービスが全て無くなっているような将来においても不変の、企業・団体が必要とするユーザー・世間とのコミュニケーションについての基本的姿勢について解説します。	

【講師プロフィール】

● いばもと たけひこ 射場本 健彦（共同ピアーアール総合研究所 主任研究員）

慶應義塾大学 総合政策学部卒

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修了

大学院修了後、富士通にて農業生産・経営研究、ASEAN 港湾インフラ開発、2020

年東京五輪関連事業に従事。2015年、SNS発信・メディアコミュニケーションを専門とする株式会社ジャパンコネクションを設立した。

最近では、ネットメディアの専門家として、国政選挙をはじめとした大型選挙運営にも携わり、政治・政策分野でのネット世論及びAIの活用可能性等に関する研究にも注力している。



2019年12月、当総研主任研究員に就任。

【実績および兼務中の役職】

2004年-2009年 岡崎研究所 岡崎久彦所長 情報セキュリティ担当秘書

2006年 未踏ソフトウェア創造事業採択(共同開発者 UXデザイン/開発担当)

2009年-2015年 富士通株式会社(農業・UX・カメラ研究/ASEAN開発/五輪関係政策渉外)

2013年 CEATEC 総務大臣賞(富士通 農業生産システム開発)

2018年 (特非)公共政策調査機構 運営委員・チーフ インフォメーション オフィサー(現任)

⑨実践ニュースリリース

- 本講座の特色 元共同通信社記者。共同ピーアールで企業の広報コンサルティングなども手掛け、メディアの視点と企業の視点双方を持つ講師が行う実践的な講座。
- 受講料 40,000円（消費税、資料代含む）

オンライン「実践ニュースリリース講座」カリキュラム

全講座1時間38分

時間	講義（内容）	講師
講座1	ニュースリリースのポイント <ul style="list-style-type: none">・なぜリリースは見向きもされないのか・記者はリリースにどう接するか・ニュースとは何か・リリースでの訴求ポイント	池谷 忍
講座2	リリースはタイトルが命 <ul style="list-style-type: none">・良いリリース、悪いリリース・提出リリースの講評、アドバイス	

【講師プロフィール】

●池谷 忍（共同ピーアール株式会社顧問、元共同通信社記者）

社団法人共同通信社入社後、地方勤務を経て編集局経済部、内政部デスク、業務局業務企画部次長、編集局内政部長兼論説委員、経営企画室幹事、株式会社共同通信社事業戦略室長などを経て、2014年10月退社。

2015年4月株式会社共同ピーアール入社し、執行役員、コンサルティング部長などを経て2018年3月退社。

共著に『自治体財政を分析・再建する』がある。



<広報の学校>

2003年に広報パーソンの育成・教育専門校として開校。広報の基礎から実務知識まで、理論と実習・演習を効果的に組み合わせたカリキュラムで学ぶ。各講座を専門家が徹底指導。受講者は3000名を超える。

お問い合わせ: seminar@kyodo-pr.co.jp 広報の学校 事務局あて